



・ AFTER ・

現場の経験と先輩の指導の下、
今では担当するプロジェクトの幅
も広がった。一歩ずつ前の成長を
続けている。

・ BEFORE ・

大学ではゴルフをはじめ多くのス
ポーツを始めた柿沼さん。そこで目
標を諦めない粘り強さやチームワー
クの大切さを学んだ。



柿沼和樹さん

本州統括事業部 工務部

PROFILE

2017年入社。工学部建築都市環
境学科卒業。大学時代は建物が街に
どのような影響を及ぼすか研究する
都市計画について学んでいた。行動
予測という点で現在の仕事にも生か
されている。

Before → After

舞台は街の生活ラインを支える現場

「地図に残る仕事がしたい」という強い気持ちを武器に、この世界に飛び込んできた柿沼さん。
入社から現在までどのような仕事に取り組んできたのか。
また、仕事に関する心境についても尋ねた。

1年目から責任ある現場へ

任せてくれる環境が成長の鍵

空港や高速道路といったインフラや舗装やメンテナンスで支える地崎道路。その技術力は、発注者から高く評価されており信頼も厚い。「父親が街づくりに携わる仕事をしており幼少期から漠然とした憧れがありました。なかでも自分の場合は特に道路に興味があった。そこで、舗装に関して技術力と実績を持っている地崎道路に就職を決めました」と振り返る柿沼さんは、今年で入社3年目になる。入社以来、さまざまな経験を積み重ね成長している。「最初に担当したのが羽田空港のプロジェクトでした。内容は既設の水道管を新しいものに取り換えるというもので、図面の修正に強度計算にと、慣れない業務ばかりで苦戦していたのを覚えています」
実際入社したての頃は失敗の連続だったという。そのたびに先輩からのアドバイスを受け、少しずつ成長していった。大きな責任が伴う現場経験を経て、現在は2020年の完成を目指した東関東自動車道の舗装補修工事に従事しており、事前の準備や安全管理などを担当している。

「大学では建築設計の授業で図面の作成や構造物の耐久強度の求め方を学び、都市計画では、”先を見通して人や物を動かす”ことを考えるため、その知識を生かすことができます」

柿沼さんは、同じように自分の将来についても見通している。今後は先輩たちの下でよりスキルを磨き、工事に関わる全スタッフが協力しやすい環境をつくれるようになるのが目標だと話す。一人前の施工管理技術者を目指す柿沼さんの表情は、笑顔に満ちていた。